

16 世紀、商人たちは清水峠（しみずとうげ）を經由して越後国（えちごのくに）（現在の新潟（にいがた）県）と上野国（こうずけのくに）（現在の群馬（ぐんま）県）に通り始めた。この道は、三国峠（みくにとうげ）経由で山越えをして北東へ向かう、既に確立されてはいたが遠回りとなる道の代わりとして機能した。

越後の戦国大名であった上杉謙信（うえすぎけんしん）（1530～1578）は少なくとも 13 回三国山脈を越えたとされるが、急坂と多雪地帯の清水峠を利用することなく、すべて三国街道を利用した。しかし、最短距離である清水峠越え道の重要性を認識したため、その道沿いに山城を整備した。1632 年には、徳川幕府（1603～1868）が峠を閉鎖し、軍事・警察上の理由から、取り締まりのために、湯楡曾（ゆびそ）と清水の両側に番所が設けられた。江戸（えど）（現在の東京（とうきょう））の商人と地元の人々は、清水峠をもう一度開くよう幕府に繰り返し訴えたが、閉鎖されたままだった。

1872 年、国による古い街道制度が廃止されると、1874 年には県令がこの峠道を清水越え新道として整備した。その後、新たに馬車が通れる車道が建設され、1885 年に国道 8 号に認定された。しかしながら度重なる土砂崩れや雪崩により 1888 年には不通となった、しかし、明治になって整備された清水越え新道と国道 8 号の使える場所を整備し、しかも、新潟県側の一部を賃取り道路として開削し、明治末期まで大いに利用された。その後、1920 年に国道は県道に降格され、1970 年に国道 291 号線に再度認定された。現在、峠の新潟県側の賃取り道路だったところが登山道となり、群馬県側は、一ノ倉沢より奥はすべて登山道の一部に組み込まれている。道沿いには古い石垣など、清水峠越えの遺物を今も見ることが出来る。